

クリスチャンと社会

—若者へのミニストリーを考える—



日本の社会と歩調を合わせて日本の教会も高齢化が進行しています。春には、高齢者に対するミニストリーを福音理解の中に位置づける機会を得ました。翻って秋の研究会では、若者たちへの宣教を再考したいと思います。次世代の担い手を育てることにおいて成功してきたとは言い難い私たちは、どのような神学的再構築を必要としているのでしょうか。

理事長 内田和彦

『クリスチャンユースの信仰発達』



岡村直樹氏
(東京基督教大学)

コロンビア聖書大学、トリニティー神学校を経て、クレアモント神学大学院を卒業。カリフォルニア州、アズーサパシフィック大学で教鞭を執る傍ら、日系人長老教会で約10年牧会し、2006年春、25年ぶりに帰国する。現在、東京基督教大学教授、日本同盟基督教団神学教師、福音主義神学会東部部会理事。東京基督教大学における担当教科は、組織神学、現代神学、ユースミニストリーの神学と実践等。専門分野は宗教の現象学的研究(グラウンデッドセオリー)。哲学博士(Ph.D.)。横須賀中央教会会員。

『若者と生きる教会』

—失敗に付き合う大人達、聖霊論的パースペクティブからの考察—



大嶋重徳氏
(KGK関東地区主事)

1974年京都府生まれ。福知山福音自由教会で受洗。1997年からキリスト者学生会(KGK)主事となる。2000年に退職し、神戸改革派神学校入学。卒業後、KGK主事に復帰。北陸地区主事を経て、現在、関東地区主事。

とき 2010年11月29日(月) 14:00 ~ 17:00

ところ お茶の水クリスチャンセンター 416号室

※13:30 ~ 14:00 礼拝